

地震防災マップ

八幡町



平成19年度 郡上市

大きな揺れが想定される地震

郡上市に影響を及ぼすと考えられる大規模な地震として、3つのケースを想定しました。

1 複合型東海地震

四国から東海海域にかけては、過去に100年～150年に一度、大規模な海溝型地震が繰り返し起こっています。このうち、東海地震に関しては、前回の発生(1854年安政東海地震)以来すでに150年が経過しています。このため、東海地震がいつ起きてもおかしくない状況にあるといわれています。

●東海地震と東南海地震は、連動して発生する可能性があることから、ここでは2つの地震が同時に発生した場合(複合型東海地震)を想定して震度を推定しました。マグニチュードが8クラスの非常に大規模な地震です。

2 高山-大原断層帯による地震

高山-大原断層帯は、明宝地区から北東に向かってのびる全長約50kmの活断層です。この断層全体による地震としてマグニチュード7.6の地震を想定しました。

●地震調査研究推進本部(文部科学省)の調査・研究によれば、地震を起こす可能性がある断層であることがわかっています

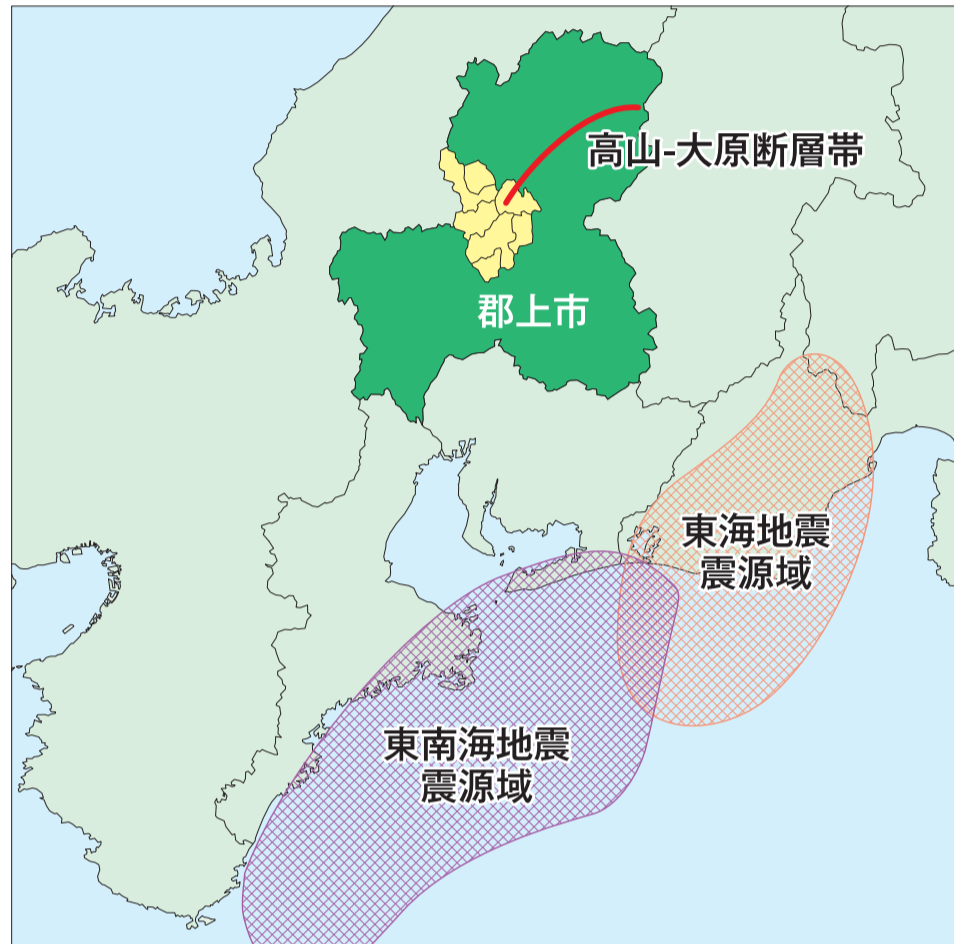
●今後30年以内に地震が発生する確率は、0～5%と推定されています。

3 どこでも起こりうる直下の地震

近年、平成16年の新潟県中越地震、平成17年の福岡県西方沖地震、平成19年能登半島地震等、これまでに大地震発生の可能性が低いと言われていた地域で地震が発生しています。

●ここでは、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震クラスの地震が郡上市の直下で発生したとして、マグニチュード6.9を想定しました。

●長良川上流断層帯の活動については、詳細が調査されていないため、未知の断層の活動の可能性も含めてこのケースとしています。

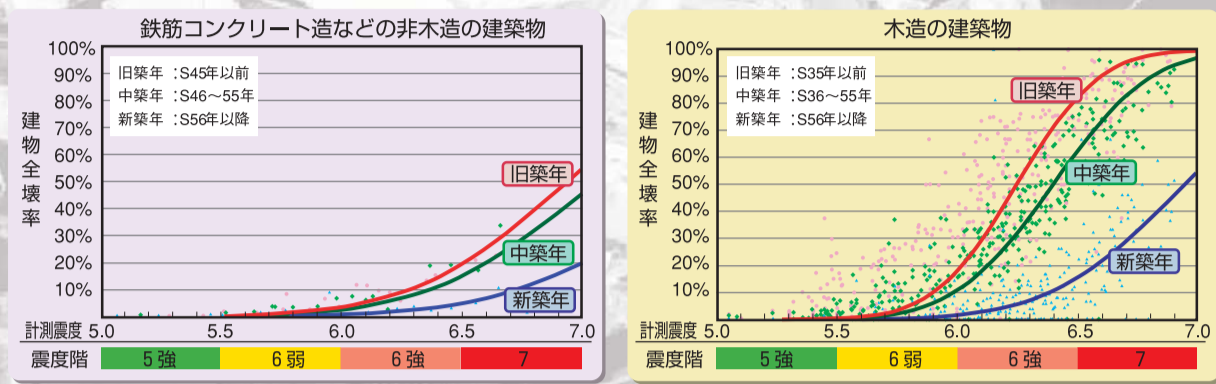


地震による建物被害

・阪神・淡路大震災では10万棟以上の建物が全壊し、多数の死者を出しました。古い家に住む高齢者の犠牲者が多かったのも重要な点です。

・一般に、震度が大きくなるほど建物の倒壊率は高く、下のグラフに示すように、震度が6弱～6強以上で建物の全壊率が急激に高くなる傾向にあります。

この傾向は、昭和56年以前に建てられた古い木造住宅ほど高くなっています。



地震による建物の倒壊事例

・阪神淡路大震災では半壊の建物の棟数は全壊建物の約8倍でした。
・昭和56年以前に着工した建物は、古い耐震基準のため、耐震性が劣る場合がありますので、耐震診断・耐震改修を行うことが重要です。

地震はいつ起きるかわかりません! あなたのお住まいは安全ですか?

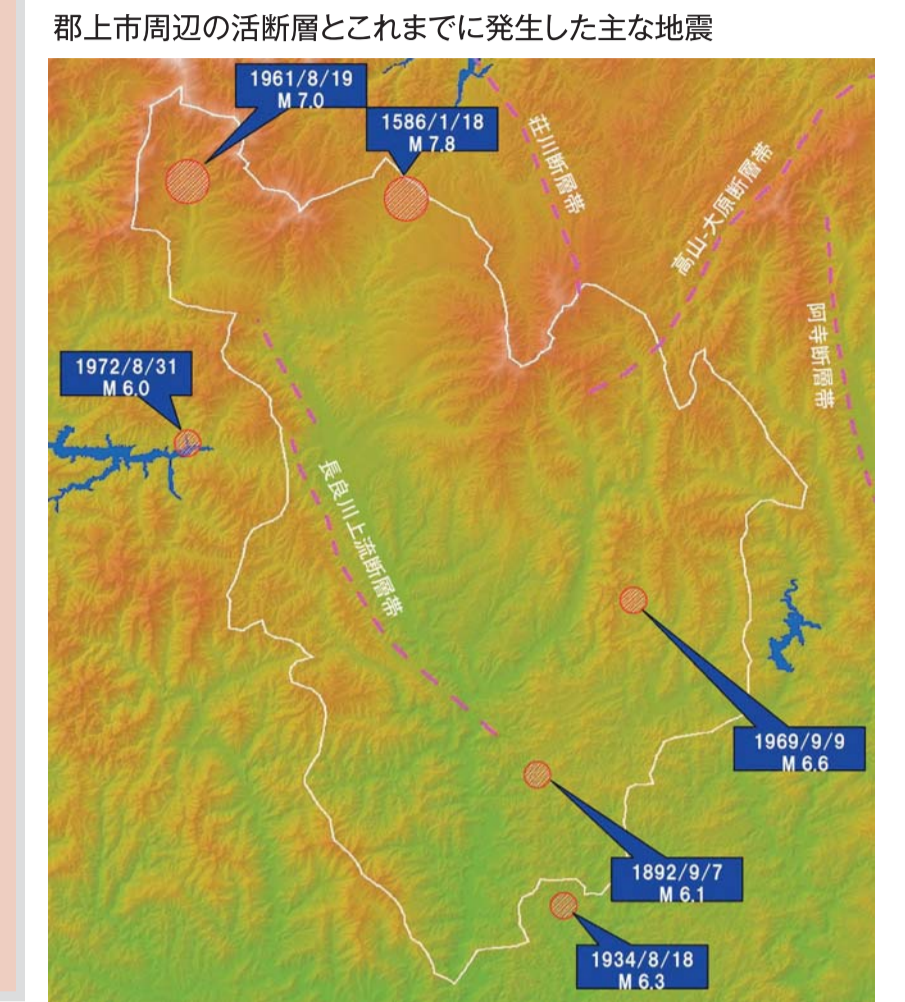
・阪神・淡路大震災の死者の8割以上が、家屋の倒壊や家具の転倒による圧迫死・窒息死でした。

・新潟県中越地震でも古い木造住宅を中心に多くの家屋が倒壊し、死傷者がでました。

・住宅の耐震化や家具の転倒防止の重要性が教訓として示されながら、これらの対策はなかなか進んでいないのが現状です。

・郡上市には、長良川上流断層帯や高山-大原断層帯と呼ばれる活断層が分布していますが、過去にもマグニチュード6～7クラスの大きな地震を経験しています(右図参照)。

・郡上市では、大規模地震発生の可能性や予想される被害について市民の皆様へ認識していただくこと、日頃から地震に対する備えをしていただくために地震防災マップを作成しました。マップをこまめに確認し、地震に対する安全性について考えてみてください。

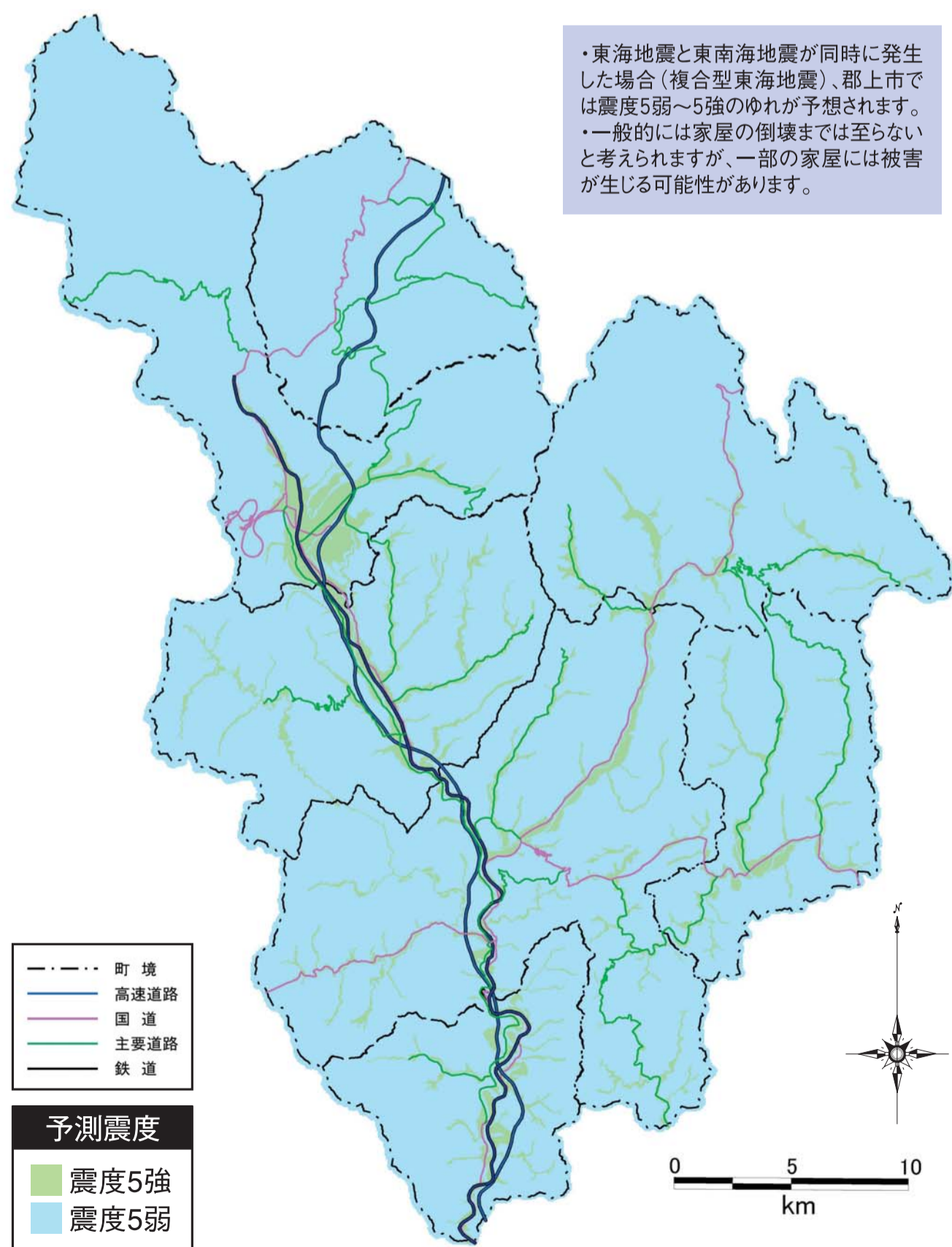


防災マップの内容

- おもて面
- ◎おもて面には、「揺れやすさマップ」として、大規模な地震3ケースについて、予測される震度の分布を示しました。
 - ◎50mメッシュ毎に計算を行って、予想される震度毎に色分けをして表示しています。
- うら面
- ◎うら面には、大規模な地震が発生した場合に、建物に全壊被害が生じる程度を「地域危険度」として表しています。
 - ◎「地域危険度」は、50mメッシュ単位で分割した地域に建っている建物の中で、全壊する建物の割合(建物全壊率)により設定しています。危険度の数値が大きくなるほど地域の建物を受ける被害が大きくなります。

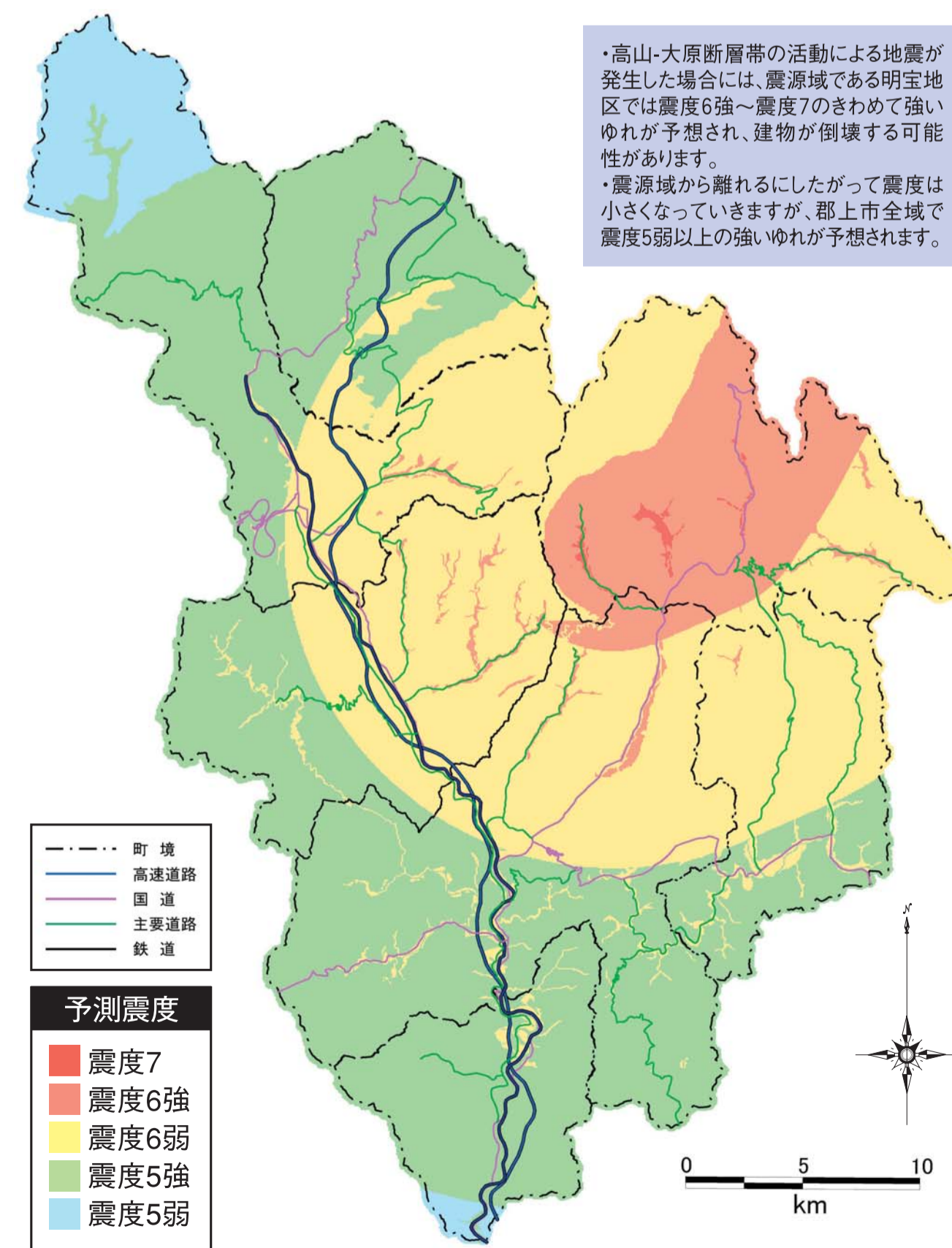
揺れやすさマップ(震度予測図)

1 複合型東海地震が発生した場合の予測震度



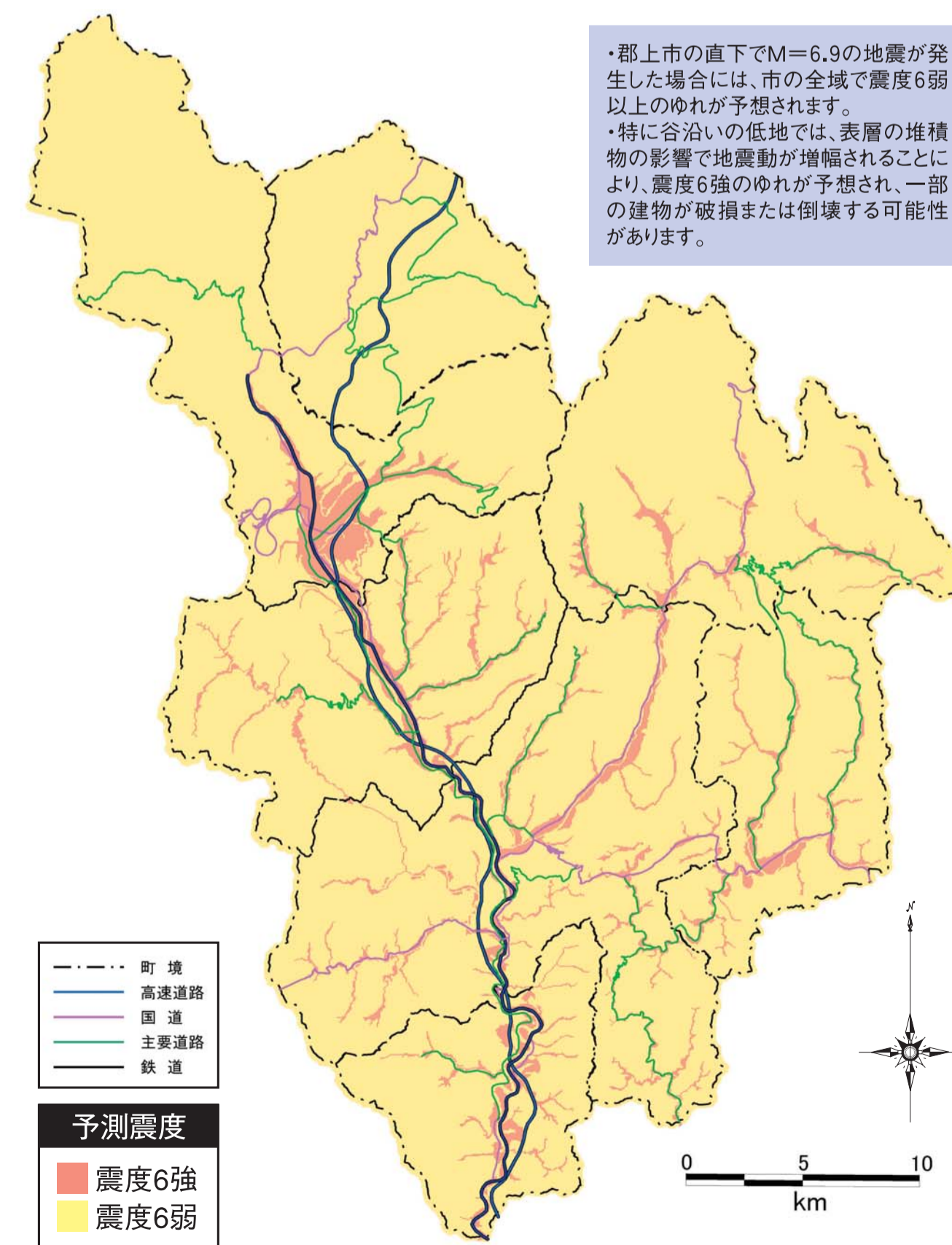
・東海地震と東南海地震が同時に発生した場合(複合型東海地震)、郡上市では震度5弱～5強の揺れが予想されます。一般的には家屋の倒壊までは至らないと考えられますが、一部の家屋には被害が生じる可能性があります。

2 高山-大原断層帯による地震が発生した場合の予測震度



・高山-大原断層帯の活動による地震が発生した場合には、震源域である明宝地区では震度6強～震度7のきわめて強い揺れが予想され、建物が倒壊する可能性があります。
・震源域から離れるにしたがって震度は小さくなっていきますが、郡上市全域で震度5弱以上の強い揺れが予想されます。

3 どこでも起こりうる直下の地震(M6.9)が発生した場合の予測震度



・郡上市の直下でM=6.9の地震が発生した場合には、市の全域で震度6弱以上の揺れが予想されます。
・特に谷沿いの低地では、表層の堆積物の影響で地震動が増幅されることにより、震度6強の揺れが予想され、一部の建物が破損または倒壊する可能性があります。

ガラスときても、あわてないで行動しましょう。

震度は、地震の揺れの大きさを表します。ここでは、概要をご紹介します。

震度0	●人は揺れを感じない。	震度5弱	●棚の食器類や本が落ちたり窓ガラスが割れることがある。 ●つり下げられたものは激しく揺れる。 ●山地で落石、小さな崩壊が生じることがある。
震度1	●屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。	震度5強	●タンスなどの重い家具や自動販売機が倒れることがある。 ●耐震性の低い木造住宅では壁や柱が破壊するものがある。
震度2	●屋内にいる人の多くが揺れを感じる。 ●つり下がった電灯などがわずかに揺れる。	震度6弱	●立っていることが難しい。 ●壁のタイルやガラスが割れて落下し、ドアが開かなくなる。 ●耐震性が低い建物が倒壊する可能性がある。
震度3	●屋内にいる人の多くが揺れを感じる。 ●棚の食器類などが音を立て、電線が少し揺れる。	震度6強	●はわないと動くことができない。 ●重い家具のほとんどが倒れ、耐震性の高い建物でも壁や柱が壊れる。
震度4	●睡眠中の人ほとんど目を覚まし、歩行中の人揺れを感じる。 ●つり下げられたものは大きく揺れる。	震度7	●自分の意志で行動できない。 ●地すべり、がけ崩れ等が発生する。 ●耐震性が高い住宅・建物でも、傾いたり大きく破壊されるものがある。

※マグニチュードが地震の規模を表すのに対して、震度は揺れの大きさそのものを表します。建物の構造等にもよりますが、一般に、震度5強以上で建物被害が生じる可能性があります。